

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370102727
法人名	特定非営利活動法人あやの里
事業所名	グループホームあやの里
訪問調査日	平成 20 年 3 月 13 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年2月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4370102727
法人名	特定非営利活動法人あやの里
事業所名	グループホームあやの里
所在地 (電話番号)	熊本市山ノ内2-1-14 (電話) 360-3511
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成20年3月13日

## 【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 8 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	14.13 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 240000 円)	有りの場合 償却の有無	有: 2年
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1300 円		

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東野病院 赤坂外科胃腸科医院 小柳病院 合沢歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

回りを住宅に囲まれた敷地に2つのグループホームとデイサービス、小規模多機能住居が併設されている。事業所毎の機能と、同法人内で合同で日常的に行なわれるレクリエーション活動に、設備や人的資源を柔軟に活用し、効果的で効率的な運営が出来ている。開放的な平屋作りで、庭にはウコッケイが飼育され、犬が寝転んでいる様子には、施設の雰囲気はなく、大家族が住む大きな住宅の一つになっている。にこやかで、穏やかな表情の入居者を支える職員は、殆どが豊富な経験を持つ有資格者である。職員が忙しく動き回ることを極力抑え、利用者のペースを大切に「ゆとり」のあるケアが提供されている。理念に基く福祉の心が共有され実践されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、改善課題としての特別な指摘はなく、高く評価されている。職員は評価結果に満足することなく、更なる質の改善への意欲を示している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>主任レベルの職員が中心となり自己評価に取り組んでいる。外部評価を質の確保の確認と向上のための機会と捉えている。外部評価員に夜勤・日勤間の引継ぎ朝礼から観察を要請するなど、外部評価受審に対する前向きな姿勢が窺えた。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では事業目標・活動報告・ヒヤリハットなどの報告やルール改定などの情報提供が行われている。参加者とのQ&amp;Aで出される質問や疑問を気付きの場所と捉え、サービス内容の再確認を行っている。防災訓練についての質問を受け、改めて避難訓練の実態を見直し、利用者避難訓練の頻度を増し、災害に備える意識を高めるなど、運営に反映している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>寝具の入れ替えや衣替え、履き物整理など、ホームからの協力要請に家族は協力的な姿勢である。遠方から「家族会」に参加する家族への負担を軽減すべく、ホーム側から開催回数を減らす提案がされたが、家族会の強い希望でこれまでどおり毎月賑やかに行なわれている。家族会とホームとの協力関係の基盤が築かれている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域への福祉貢献は法人の目的としている。常に開放的な環境作り心がけ、小学生のボランティア・保育園児の訪問受け入れや、地域主催の祭り・お月見・ドンドヤ・草取り・清掃作業にも積極的に参加して地域の人々との交流を行なっている。また、敷地内に「花いっぱいミニ公園」建設を計画しており、地域住民との更なる交流を目指している。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人が今どのような状況にあっても、生きてきたように、その人らしく地域で暮らし続けることができるように、人としての尊厳を大切に、その人を守りたい」という思いを込めた独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念に託す思いを、職員会や朝礼・日々の行動などで示し、理解を深める努力を続けている。利用者への優しい声掛け、眼差し、挨拶、丁寧な言葉使い、腕を組みさりげなく支える動作、見守る態度に、理念の浸透と実践が観察された。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一斉草取りでは、広い敷地の外回りを利用者が行っており、近隣公園の草取りには、職員が早朝から参加し、地域住民との交流を深めている。公園で行なわれる夏祭り、ドンドヤなどのイベント参加の際は、民生委員やボランティアの自発的な支援活動を受け安全な見学場所が確保されるなど、支援を受けている。	○	事業所の敷地も街の一部とみなして、地域の方が寛げる空間としての活用を計画し、敷地内に花いっぱいミニ公園建設を検討中である。そこには「門戸を開ける」その一歩先の「自ら招き入れる」努力が窺えた。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と主任レベルの職員を中心に自己評価に取り組み、外部評価を質の確保の確認や向上のための機会として捉えている。外部評価に当たり、夜勤・日勤の引継ぎを行う朝礼から観察を要請するなど、外部評価受審に対する前向きな姿勢が窺われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター長・地元社協・社協会長・家族代表・家族会副会長などの参加を得て、奇数月に開催されている。事業目標・活動報告・ヒヤリハットなどを報告し、ルール改定などの情報も提供している。会議出席者から防災訓練についての質問を受け、改めて避難訓練の重要性を認識し、利用者と共に避難の練習を毎月行い、意識を高めるなど、即、運営に反映している。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	100歳の誕生日を迎えた入居者の祝賀会を施設で開催した際、熊本市役所の担当者に働きかけ、職員が市長からの表彰状を持参し、会の盛り上げに協力を得るなど、気軽に相談出来る関係が築かれている。市の支援相談員の訪問も活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の家族会には、全入居者の家族が参加している。家族会では、入居者の暮らしぶりを撮影した写真でスライドショーを行い、日々の状況は介護支援記録や連携シートなどの個人ファイルを閲覧してもらうことで、1ヶ月の状況の報告としている。家族との連絡は連携シートを活用し、小さな確認事が確実に行なわれるように工夫されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事を取りながら家族会が行なわれた後、自主運営の家族役員会が行なわれ、管理者はオブザーバーとして出席している。予防接種や母の日のプレゼントの確認など、意見交換や情報交換が行なわれている。家族会からは全職員に対し、クリスマスプレゼントが贈られたり、個人的に寄付が寄せられ、施設で使用する一部の椅子・テーブル・職員用ユニフォームなどの購入に当てられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎日、朝のレクリエーションは2つのユニットとデイサービス利用者と一緒にこなっており、法人内の全職員と馴染みになれるような工夫がされている。職員の定着率は高く、人事異動によるダメージ影響は少ない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は法人内外の研修参加や資格取得のための支援を積極的に行っている。資格取得時には報奨金を与え、研修は出張として資金面での支援を行っており、職員のモチベーションアップを保っている。その結果、職員の殆どが資格を持つ専門家集団になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の研修に会場を提供し、実習生の受け入れや、入居・空き状況などの情報交換を行うなど、他事業所との連携においてリーダー的役目を担っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は見学や体験入居を勧め、職員が自宅訪問を行うなど、馴染みの関係作りへ努力している。入居後間もない利用者の戸惑いを軽減するために、センター方式の記録を徹底し、職員間で生活歴情報の共有が図られている。リビングルームでは声かけを繰り返し、共通の話題で会話し、安心感を高める努力が見られた。また、家族からメッセージや写真を送ってもらい、寂しさや不安を支える支援も行われている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族会の開催日は入居者が職員と協働で美味しい食事を準備し、家族を迎える主人公として位置づけられており、自らお洒落をして、パーティーを楽しむ機会としている。また、利用者の人生哲学や礼儀作法の指導が、若い職員の学びの場となり、支えあう関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性を尊重し、生活歴・家族構成・好み・習慣など、より多くの情報を把握し、意向把握に努めている。入居者が自分の心の世界に入っている状態と思われる時は、そのままを受け入れ共感するなどの取り組みで、本人本位を大切にしている。利用者の状況は24時間申し送りノートに記録し、全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は生活歴・健康状態等を反映し、きめ細かな作成となっている。センター方式での記録が充実しており、本人が出来ることや、重要視していることを明確にしており、手を出しすぎないケア計画で、特にケアについては具体的な表現で手順が示されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは月末に定期的に評価している。心身に大きな変化が見られた際は、ケース検討会を開き、担当者・家族と話し合い、現状に沿ったケアプランが作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17		○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「病院から退院した入居者が、ホームに馴染めなくなっており、同敷地内にある、より家庭的な作りの小規模多機能住居に居を移ってもらい様子を見ると、安心した生活を取り戻すことができた」という事例を持つ。GH・デイサービス・小規模多機能住居など、同法人内の施設と人材を柔軟に活用し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入居者全員がホームの協力医を主治医としている。本人や家族が他の医療機関の診察を希望する場合は、通院に家族の同行を要請し、支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応の指針について入居時に説明し、重度化した場合には「終末生活支援に関する確認書」に同意を得て対応している。本年3月に看取った入居者の家族が、その後の家族会において「あやの里は極楽浄土です」と表現し、感謝の意を示している。今後は「あやの里」でボランティアとして活動すると語り、家族と職員の心の満足が感じられた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	礼儀作法や挨拶・言葉使いなど、入居者のプライドを尊重し対応している。排泄や入浴は、いつ、誰が入浴・排泄の介助を受けたのか、全く分からないように、自然に誘導されている。個人記録は生活の中で家計簿をつけているかのように記入し、薬棚は名前が見えないようにカレンダーで覆うなど、プライバシー確保への取り組みがある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「家庭的な環境の提供」をサービスの目的としており、一人ひとりのペースを大切にした支援が行われている。エプロンかけて食事の仕度を手伝う人、庭の菜園で収穫を楽しむ人、音楽鑑賞をする人、焼き芋のおやつでお茶を楽しむ人、思い思いのペースでの家庭生活が見られた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が、お気に入りのエプロンをかけて腕まくりし、野菜の下ごしらえや盛り付け・配膳など、生き生きとした表情で仕度する様子が見られた。食事中はクラシック音楽のBGMで落ち着いた雰囲気になっている。筍や蓬もちなど季節の食材を取り入れ、五感を働かせる工夫が取り入れられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同敷地内にあるホームとデイサービスを利用することで、希望者は毎日でも入浴することができる。入浴剤で「日替わり温泉」や季節感を味わう「お茶湯・ゆず湯・菖蒲湯・バラ湯」など入浴が楽しめるように色々工夫されている。入浴拒否のある入居者もスタッフの上手な誘導で、清潔な生活が保たれていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝のレクリエーション・レコード観賞・三味線・歌の会・園芸・お花・洋裁・お料理など、利用者の好みに自由に参加し、気晴らしができるように多彩なプログラムが用意されている。センター方式の記録からヒントを得、利用者が好みそうなこと、参加できそうなことを支援する体制が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	葉書を出しに郵便局へ、日用品購入にマーケットへ、髪染めに美容室へと出かけたり、気分転換に散歩をするなど、希望に添った外出の仕組みが作られている。また、誘い合っておやつを食べに出かけたり、外食の機会を作るなど、自然な外出支援が窺えた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はなく、敷地内の他のユニットや庭を自由に行き来できるようになっている。敷地内の他棟の職員との連携、近隣のタクシー会社・住民・警察・消防署にも見守りの依頼をしており、事故は起きていない。夜間は他棟の夜勤者とクロスコール(電話)を行い、「異状なし」を確認する体制も構築されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を行い、災害に備える意識を高めている。毎日、最後の戸締り時に建物の周辺を見回り、不審物が敷地内にはないか確認することになっており、非常時にはボタンを押すだけで、警備会社に通報され10分以内に警備員が到着する体制がある。近所の住民・警察・消防署には日頃から協力を依頼し、了解を得ている。	○	日頃の散歩コースが防災公園になっており、緊急時のスムーズな避難に役立つものと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事の摂取量・水分摂取量をチェックし記録している。カロリー制限がある入居者には主食やソースで調整し、特に栄養管理が必要な入居者には摂取量を細かく記録し管理を行なっている。尚、食欲不振の際は、好みの食べ物で摂取量の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝食後、朝のレクリエーションは合同でデイサービスで行なわれ、その間、共用空間の清掃が行なわれ、清潔が保たれている。開放的で、採光も良い広いリビングでは、居ながらにして季節や天気、風が感じられる快適な空間になっている。また、台所には入居者のエプロンが掛けてあり、食事の仕度をする主婦の姿を感じる生活感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、季節の衣替え・寝具の入れ替え・靴の整理など、居室の環境整理が行われている。鏡台・デスク・椅子など使いなれた家具や家族の写真にそれぞれの名前を書き込んで張るなど、利用者と家族が話し合い、好みの居室になっていると思われる。中には混乱を防ぐために、シンプルな雰囲気の部屋も見られた。	○	シンプルな中にもカーテンの色を明るくするなど、本人の好みを取り入れる工夫も選択肢の一つかと思われます。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	特定非営利法人あやの里
(ユニット名)	グループホームあやの里 I
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市山ノ内2-1-14
記入者名 (管理者)	岡元 俊子
記入日	平成 20 年 3 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	校区の社協長さんを通して、町内の集まりに参加したり、あやの里のレクレーションに参加して頂いたりしている。お困りの時は、いつでも相談して下さる様に、民生委員さん方と連携をとっている。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の機会を頂き、職員へも日頃から出来ている事、努力する事、不足している所等、振り返る機会とし、取り組んでいる。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で話し合われた内容は記録をし、各棟に回覧している。 ・必要に応じてさらに職員間で話し合いを深め、サービス向上に活かすよう努力している。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や町の老人会、婦人会、社協の協力があり、情報交換を行いながら質の向上に取り組んでいる。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、学んだ者がそれを報告することによって必要性和活用方法を伝えている。それによって必要な方に支援できるようにしている。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	折にふれ、虐待の防止について職員間で話をし徹底している。また、更衣、入浴などご利用者の身体に異常がないか注意深く観察してる。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修に参加する機会を設け、より広く深い知識を得、技能を向上させることに努めている。 ・研修後は速やかに報告を行い、職員間共有の知識・技能となるようにしている。	○
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で知り合った職員の所へオムツはずしのノウハウを学びに出かけたり、よその職員の方も希望があれば快く受けて、必要な研修や勉強会を開き、質の向上に役立てている。今後も希望や必要があれば、取り組んでいきたい。	○
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	今年度は、週1回朝から健康に向けた体操や太極拳を行っていたが、次第に参加が減り取りやめとなった。職員互助会より呼びかけて、日帰り旅行を計画して実施したり、年末には運営者からも補助を出してもらい、忘年会、福引会等も行っている。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年、資格取得に取り組み、ケアマネや介護福祉士の合格者が出ている。運営者より毎朝の朝礼時、正式には職員全体会の席で皆に伝えられ、拍手の元、褒章が出されて皆の励みになっている。	○
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご相談の際に、本人のお話を十分に聞く時間をとり、これまでの生活歴、病歴をふまえ、口調や表情にも気をつけながら気持ちを受け止めるように努力している。	○
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際には、ご家族が話しやすい雰囲気を作って十分に時間をとった中で、ご家族のお気持ちをしっかりと受け止めるように努めている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・何が最も必要であるのかを見極め、その時点でできる限りのサービスが行えるようにする。 ・通所や訪問介護など他のサービス利用も含め検討している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ご入居が前提であったとしても、しばらくは通っていただいたり、体験という形で泊っていただいたりしながら無理なくその場に馴染んでいただくように工夫する。 ・気の合いそうな方と近くに座ってもらうなどの工夫をしている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご入居者を人生の先輩として敬う気持ちで接し、日常生活や行事を見守りながらも共に楽しみ、知らないことは教えていただきながら生活をするという視点を常に大切にしている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族会で、活躍されている場面や、ご家庭ではどの様にされていたかをたずね、職員の立場から案を出して協力して頂いたり、ご本人がよりよい快適な暮らしが出来る様、連絡を取り合っている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族ができる範囲でご入居者との関係を教えていただき理解する。その上で、事業所が行う行事や個別の面会の折などに気付いたことを伝えたり、ふれあいの機会を作ったりしてより良い関係を支援する。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員が知り得た範囲での馴染みの人や場所の話題を提供したり、出かけたりすることによって支援する。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ趣味を持つ人、話の合いそうな人の席を近づけたり、職員が仲に入って盛り上げたりして関わり合う場面を設定する。逆にトラブルになりそうな時はさりげなく話題を変えるなどして回避する。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により退去されたとしても、お見舞いに行き様子を見て、これまでに築いてきた関係を切らないようにしている。	○	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が自分で伝えることができる場合は、直接話を聞いて希望に応えられるように努めている。困難な場合はご家族に聞いたり、記入していただいた資料をもとに本人の希望に添えるようにしている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞いたり、ご入居時にご家族に書いていただいた資料、病院や他施設からの情報をもとにして、これまでの暮らしの把握に努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの様子を観察し、より客観的な見方ができるようにシートに記入し、職員間で気付き話し合いながらご入居者の現状の把握に努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の思いを聞いた上で、健康面や日常生活面で必要と思われる事柄を整理し話し合いをして、介護計画を作成するようにしている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時、入居からしばらくして馴染んでこられた頃、入院して戻られた時、心身に大きな変化が見られたときはケース検討会を持ち、現状に即したケアプランを作成している。介護保険証が更新されたときも同様。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にある実践や工夫、結果をもとにしながら今までの介護計画を見直し、具体的にポイントを押さえ、より実践的な介護計画の作成に努力している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	広い敷地内に四軒の家があるため、気分転換が必要だと感じたら、意図的に他の家へ遊びに出かけて、お客様として迎えてもらったり、逆に遊びに来られてお客様として対応したりしながら、また必要に応じてご家族とも相談しながら他の家への転居等を支援している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	今までに本人の意向で地域資源を協力しながら個人の方を支援する場面はなかったが、あやの里へボランティア、民生委員、警察、消防、幼稚園、小学校、中学校等の交流もあり、必要時はお互いに協力しながら支援する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の生活に一番合った利用に向けて、他のケアマネジャーやサービス事業者と相談しながら、他のサービス利用についてご家族と話し合いをしながら進めるようにしている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター長に来ていただいたり、またあやの里の運営者も地域包括の運営会議に出て、助言をもらったりして互いに協働している。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回程度の割合で、かかりつけ医の往診を受け、健康な生活の継続に努めている。もし、特変があればすぐに連絡を取り、診ていただいたり、指示を受けたりできる。また、要望に応じ、他の専門医の受診もできるように支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		○	皆様、認知の診断で入居されているが、奇声や暴力行為の他、ホームで皆さんと協調が出来られない様な状況になられた時等、関係者やご家族、主治医と話し合い、専門医の受診をすすめられた場合は、情報を提供したりして治療が受けられるよう支援してきた。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ユニットには看護職員を配置し、中心となてご入居者の健康管理に努めている。24時間の医療連携体制の中でご入居者に特変があった場合にはすぐに連絡を取り適切な対応ができるようにしている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症を理解してくれない病院が多く、どうしても入院になると馴染みのある職員が顔を出して情報を伝え、病院やご家族、本人へも安心して頂ける様、医療面での協力体制も出来ており、主治医と連携をとって早期退院が出来る様努めている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会の折に、重度化や終末期に向けた方針について説明し、ご理解を得た上で、ご家族の意向を確認し文書化している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は終末期の方はおられないが、終末期の本人やご家族の意向等も聞いており、その時期になってご家族、事業所の代表やスタッフ、主治医、看護師等と十分に話し合いを持ち、変化に応じて準備ができるように日頃から意向を聞いて書面に綴っている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご入居の際は個人情報をしっかり受け止め、運営者や受け入れユニットの責任者等が入居前住居に何度か訪問し親交を深め体験的に利用して頂いたりしている。又転居の際も転居先へ担当者が赴き転出先の担当者と転出についての調整を行ったり、転出先の担当者に来てもらって馴染みを持ってもらうなど行っている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご入居者が大切に思っておられる事、守ろうとしておられる事を把握し、対応の際の言葉や態度に気をつけて接している。職務上知り得た個人情報は介護のみに利用し、外部に漏らすことがないようにしている。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で話しやすい雰囲気を作るように努力し、できるだけ思いや希望を出していただくように努めている。わかりやすい言葉ではっきり伝え理解していただく努力をしている。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の側から行事や作業等への参加の声かけはするが、特に強要することはない。ご自分のペースで生活していただいている。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員と共に服を選んだり、髪を整えたりして身だしなみを整え、おしゃれを楽しんでいただくように支援する。特に食事会やお正月、誕生会といった時はふさわしい服を選び、気分を高めていただく。白髪染めの要望に応えることもある。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮をむいたり、野菜を刻んだりして調理の下ごしらえをしていただいたり、食器洗いや食器拭きなどに力を活かしていただいたりしている。またねぎらって充実感を持っていただいている。誕生会の食事は好きな物を教えていただき、より楽しみとなるように工夫している。	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	共に食事をする中で、どれが美味しかったか、やわらかさの加減はどうか、また苦手なものはないかなどを把握するように努め、よりおいしく味わっていただけるように支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排尿のパターンを把握し、トイレ誘導をして、失敗やおむつ使用の減少に努めている。職員間で、トイレ誘導や便のコントロール状況について情報を共有し、気持ちの良い排泄のために努力している。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本棟では、月、水、金に入浴できるように準備をしているが、事業所全体では、デイサービスで毎日入浴できるようにしているので、希望されれば毎日入浴できるようにしている。シャワー浴であれば、何時、どこでも対応可能である。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常生活の中でのリズムをよく観察し、声をかけて居室で休んでいただいたり、和室でゆっくりくつろいでいただいたりする。夏場には体力消耗に考慮し、昼寝時間を設定しているが、休まれない方には職員が対応している。	○	
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中での家事や、得意な事を生かしての趣味の活動に参加していただくようにし、賞賛やねぎらいの言葉をかけて満足感、充実感を感じていただけるように努力している。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、小額のお金を持っておられる方がいる。何か買いたい物がある時には、職員と共に近くの店へ行き、自分でお金を払って買い物をしていただけるようにしている。数名で出かけ、品物を選んでいただく事もある。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を好まれる方と共にお茶を持って出かけたり、隣の棟へおつかいに出かけたり、一人ひとりが満足されるように支援している。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣や季節の花の見物、外食など、生活の中にめりはりや楽しみが持てるように努めている。また、ご家族と共に、墓参りや食事などに出かけられるように体調管理や準備、申し送りを確実にして支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が取り次いだり、番号を押してさしあげることもあるが、できるだけ直接お話をさせていただけるようにして電話に出られるよう支援している。また、要望があればはがきや封書も準備している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方々のご訪問は、常にご本人と同じように喜んでお迎えしている。水入らずで過ごせるように、サンルーム等の場所を確保し、お茶をお出ししてゆっくりと過ごしていただくようにしている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご入居者の人権を守り、拘束をしないケアに努力している。ただし、感染症にかかれた時に他の方へ広がるのを避ける為、自室で過ごしていただいたり、ベッドから転落の危険がある時にベッド柵を取り付けたりなど、やむを得ない場合はご家族の了解を得て行うこともある。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を取り付けておらず、玄関も日中は常に開放していて、ご入居者が自由に動けるようにしている。職員は常に所在の把握に努めており、他棟とも連携して安全確保を心がけている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目をかけ、気をかけ、所在や様子の把握に努めている。自尊心に配慮し、居室やトイレなど不快にとられる行動は慎むが、必要な時は中に入り、居室を片付けたり便の性状を確かめたりもしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の状態をよく観察、把握した上で、職員間で協議し、危ないと判断したものを取り除くようにしている。その際、ご家族にも連絡して了解を取るようにしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行状態、食事の摂取状態など一人ひとりについて把握し、対応のための知識を学んで実践している。食事や服薬の際には側で見守り、窒息、誤薬等がないようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを整備し、各棟に備えている。また、朝礼や健康教室、職員会を通じて、職員の技能向上のための訓練を行っている。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職場内においては、業者の契約の上、安全管理に努め、職場内での避難訓練を行っている。ご近所の協力が得られる様、日頃からお願いをして了解を得ている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々の暮らしの中で気付いたリスクについては、折にふれご家族に説明し、より良い対応策について話し合い、ご家族の了解を得るようにしている。できる限り抑圧感なく生活していただくよう努力している。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事や水分の摂取量、顔色、足どりなど、外見から判断できるものと、血圧、脈、熱など、数値で把握できるものの双方をあわせて常に体調の把握に努め、気づきを共有し、得変があれば速やかに医療的に対応できるようにしている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から出される薬について、直接説明を聞いたり説明書を読んだりして理解に努めるとともに、間違いのない予薬管理のため、薬箱、朝礼報告の工夫をしている。薬の変更の際には確実に申し送り、体調の変化の有無に留意している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便通を促す食物、水分の摂取と運動の働きかけに務めている。また特に注意の必要な方に対しては、腸鳴を聞いたり、腹部状態をチェックしたり臨時薬をつけるなどして、便秘の予防と対応をしている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の声かけをして口腔内を清潔に保持するようにしている。ご自分でできない時には職員が手伝って義歯を洗浄したり、仕上げ磨きをしている。歯科衛生師のアドバイスを参考に介助の方法を学んでいる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取毎に量をチェックして記録している。特に健康状態が気になる時には別表に細かく食事量、水分補給量を記入し、必要量を摂っていただく努力をしている。その際、状態や好みに十分配慮している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルを作成し、予防と万が一発生した際の対策を職員間に周知徹底し、実行している。（手洗い、うがい、消毒、予防衣、薬品の準備等）	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん、まな板、包丁等の消毒は日常的に行っている。職員が台所に入る際には、介護とは別にエプロンを着け衛生に心掛けている。調理の際は消費期限を確かめ安全な食材の使用、管理に努力している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門は日中開放しており、近隣の方々や小中学生の出入りも見られる。玄関付近には花壇や鉢植えもおいて親しみやすくなるよう工夫している。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内のいたる所に季節の花を飾ったり、行事の飾りをするなど、家庭としての生活感、季節感を味わえるようにしている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームでゆっくりとテレビを観たり、ソファでくつろいだりできる。リビングの窓ぎわで日なたぼっこを楽しんでおられる姿も見られる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具、また安全のための手すり、敷物など、本人やご家族と相談して居室づくりをしている。ご家族の写真や仏壇などを置かれる方もあり、心落ち着く空間作りに努めている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、起床前、居室掃除の時など換気に心掛けている。室内、リビング、サンルーム等に、温度、湿度計を置いて確認している。匂いに対しては換気を行うとともに空気清浄器の使用で快適な環境作りに努めている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを取り付け、居室ドアは軽く開閉しやすくしている。お茶も飲みたい時に自分で飲めるようにセットしている。建物内部は段差をなくし、歩きやすくしている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室ともにわかりやすく表示している。特にトイレは頻回に利用することもあり、常にライトを点けている。くつ箱、居室にも名札をつけて混乱をなくす工夫をしている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	リビングのすぐ脇にテラスがあり、天気の良い時には日なたぼっこやテラス食が楽しめる。またテラスは家庭菜園へつながって四季折々の花々や野菜作りを楽しむことができている。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな静かな住宅の中にある「あやの里」は、広い敷地に4棟の家と菜園、四季折々花に囲まれ、心静かで温かく、拘束のない心身共に居心地の良い家として過ごして頂ける様、介護者は心掛けている。利用者は4棟の家を自由に行き来して、お客様のような扱いを受けたり、お客様として迎えたりされ、職員は利用者の行き来を内線ですら知らせ合いながら、メリハリのある日々を過ごして頂いている。又、今まで生活されてこられた経験を大切に季節の行事を取り入れながら、毎月1日は小豆ご飯を炊き、季節毎のお花見にお弁当を作ってホーム外行事として楽しまれたり、毎月第2土曜日に開く家族会では1ヶ月間の主な報告やお知らせと共に「あやの里」の新聞やプロジェクターで写真を拡大して生活ぶりを見て頂く機会とし、季節感を盛り込んだ手作り料理での食事交流会も楽しみの一つになっている。県外にお住まいの御家族にもこの日を面会日として100%に近い出席率の参加がある。地域包括支援センターや校区社協様も参加して頂く運営推進会議を通して地域の中の「あやの里」として外からもドンドン来て頂いたり、ご助言を頂きながら職員も地域に出かけてプロの職員としてお応えができるよう努力研鑽していきたい。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	特定非営利活動法人あやの里 グループホームあやの里第2
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本市山ノ内2-1-6
記入者名 (管理者)	岡元 俊子
記入日	平成 20 年 3 月 4 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	校区の社協長さんをとおして、町内の集まりに参加したり、あやの里のレクリエーションに参加して頂いたり、お困りの時はいつでも相談下さるよう民生委員の方々と連携をとっている。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の機会を頂き、職員へも日頃からできている事、努力する事、不足している所等、振り返る機会とし取り組んでいる。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あやの里では、奇数月に運営推進会議を実施し、入居の状況、外出、外泊、家族会の出席状況を報告したり、規定の変更等をした時は報告し、あやの里の行事に来て頂いたり、逆に地域の行事に参加したり会議が生かされている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や町の老人会、婦人会、社協の協力があり、情報交換を行いながら質の向上に取り組んでいる。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市、県主催の研修会には必ず参加して、職員会議や研修報告を提出してもらい勉強する機会を持ち、必要な人に支援できるようにしている。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内では、当然あってはならぬ事であるので、研修会に参加した職員から報告を受けて勉強したり、事例を通して学びながら、あやの里を利用する皆様に対しても関心を持つように注意をしながら防止に努めている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の時間に合わせ、相談室を使って、一つずつ読み合わせ、特にご注意いただきたい事については、納得されるまで十分説明をし、ご理解いただけたらサイン、捺印を頂いている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の折に、皆様に苦情やご質問はないか、お尋ねして、もし改善の必要があれば管理者や職員と十分検討しご家族や利用者の方へ満足頂けるようにしていきたい。ご意見箱を常設している。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族会で、代表より1ヶ月の主な動きや利用者の皆様の生活ぶり、入退院の報告等、きちんとお伝えし、併せて金銭出納帳の確認は担当からご家族へ手渡し、1ヶ月の支出の確認領収書も確認して頂き、サインをもらっている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情が寄せられた場合は、速やかに対応し、改善が必要な場合は、すぐに取り組んでいきたい。また、文書でも残し、職員の研修にも役立てていきたい。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表をはじめ、各部所の主任、主任補佐を中心に自主的な会議を週1回開き代表の意見を聞いたり、職員の意見を伝えたりしてより良い運営に反映されている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に代表はじめ勤務作成担当者へ連絡が取れ必要な調整ができるが、連絡が取れない場合も主任の権限で調整し、必要な人員確保ができるように努めている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の方も、毎日隣の家で朝のレクリエーションを一緒にして、職員とも顔なじみの関係があり、また、週や月の行事についても、2つの家を柔軟に利用して行う為、職員もどちらも対応できるようになっている。異動は人心の一身を図る最小限に抑えるように努力している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人代表は毎朝の朝礼に必ず参加し管理者や専門職の意見に真摯に耳を傾け、その時々に応じた知識や技術を職員に伝えている、毎月の職員全体会では、テーマを出し合ったり外部研修参加者の復講をとおして学んだり、また、ナース会主催で利用者と共に簡単でわかりやすい健康教室を開いてもらったり、「もしもシリーズ」と題してロールプレイを行ったりわかりやすい学習を重ねている	○
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で知り合った職員の所へオムツはずしのノウハウを学びに出かけたり、よその職員の方も希望があれば、快く受けて、必要な研修や勉強会を開き質の向上に役立っている。今後も希望や必要があれば取り組んでいきたい。	○
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	今年度は、外部から専門講師を招き、週1回朝から健康に向けた体操や太極拳を行っていたが次第に参加が減り取りやめてしまったが、職員互助会主催の職員旅行を実施したり、年末には忘年会他年2回「お楽しみ福引き会」なども行っている。ホームの庭園でバーベキューを行ったり和気藹々の場面をつくるようにしている。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	準職員、正職員登用制を設けている。職員は資格取得に取り組む、毎年ケアマネージャー、介護福祉士の合格者が出ている。合格者には運営者より、朝礼時や、職員全体会の席で皆に伝えられ拍手の元褒賞が出されていて、皆の励みになっている。	○
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用御相談は何度でもゆっくりお聞きし、アドバイスしたり現在ご利用になっておられる場面を見て頂いたり、一般参加してみられたりしてご本人の困っておられることや不安を十分に理解していただけるよう、運営者やケアマネージャーが受けとめる努力をしている。	○
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の相談に対しては、困っておられる事を充分にお聞きして、入居者の生活ぶりや職員の対応の仕方を見て頂き、不安な事やお困りの事の参考にして頂けるようにしたり、ご本人の好きな事、得意な事との情報を聞いて体験して頂く機会を作ったりして受け止める努力をしている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御相談の緊急性、お困りの内容をしっかりと受け止め様々なサービスの種類や費用、又、他のサービス事業所等の情報もお知らせし、少しでも支援の手助けとなる様努めている。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族の相談の後、ご本人様にもお住まいを見てもらったり、利用者の方と話をしたり、お茶を飲んでいただきながらご本人様の得意の場を提供して一緒にやっていただいたりしながら利用者や職員と場を共有して、又来たくなる様な雰囲気づくりに努めている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご入居が決まると、センター方式による情報をご家族やご本人様よりお聞きして、呼び方、出身地や学んだ学校名や好きな事、嫌いな事、食べ物の好み、色の好み、気をつける事や持病等々様々な情報を知り生活の場面に生かすよう努力している。日常的に職員は作業に追われることなく利用者の自立支援を念頭に心静かに支援している	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームへは日頃家族が自由に入出入りされており又毎月の家族会では、互選による役員さん主導の会議が開催され、ホーム側も代表や責任者が出席し意見交換を行っている。個人ファイルの家族との連携シートを共有したり双方必要により、面談の場を設けている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員はご家族へもご本人が呼んでおられた呼称でお呼びし、家族会の交流会食、行事等では、幸せな時間を共有して頂くための場を提供しご家族と常に深い愛情の世界でお過ごし頂けるよう支援している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式で知り得た情報を利用しながら、お子様方の名前を出したり、育たれた場所の事を話題にしながら、ご本人の「今の世界」に即対応出来るよう努めている。いつもご本人の事を大切に思っている気持ちを伝えるよう努力している。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居の折に、今までの仕事や生活ぶり、得意なこと、好きな食べ物、気をつける事等々、センター方式に添って情報を集め、気の合いそうな利用者の中に職員も情報を伝えながら仲間作りを試みながら、仲間として溶け込まれる様努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約や終了する時、再入居を優先することを伝えて、情報を時々お知らせ下さる様話をしたり、時々訪ねたりしながら、利用者、ご家族の方へ病気等が早く快復してあやの里へ戻って頂ける希望を大切に支援している。	○	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご家族から、生活歴や生活されていた時代、大切にされている思いや品物等を把握して、プランに反映させて、チームの職員がご本人の思いを大切に介護にあたる様努力している。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れている為、わかる限りの情報を知って入居前に2ユニットのホームのどちらが合われるか、どの利用者とお友達になれそうか等、利用者が生活されてこられた暮らしを大切に思いながら把握に努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居されて気付いた事、出来られる事、少し助言や見守りが必要な事等が出てきたら、ケース検討会を開き、介護するチームが共通の認識を持って対応するよう努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、ご家族の要望や思いをお聞きして、ケース検討会を開き、部屋づくりや食事テーブルの友達関係、好物、嫌いな物(禁止のもの)等、知り得た情報で、よりよい暮らしをして頂けるよう、関係するスタッフで充分検討し、介護計画を作成している。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病気等で変化が生じた場合は、ケース検討会を開き、関係スタッフ、ご家族と話し合い、より良い環境と対応で快適な生活が維持して頂けるようプランを作成している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、支援経過に記録しているが、特に食欲が落ちられた時は食事量を把握して、代替食品を提供したり医師と相談しながら、栄養補給飲料を試みたり、好きな食べ物を用意したり、又、排便の状況や形状、腸鳴を毎日記録し、誰もが情報を共有し、工夫や意見を出し合って実践に生かしたり、計画や見直しに生かしている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	広い敷地内に四軒の家があり、気分転換が必要だと感じたり、意図的に他の家へ遊びに出かけて、お客様として迎えてもらったり、逆に遊びに来られてお客様として対応したりしながら、必要に応じては、ご家族とも相談しながら他の家への転居等も支援している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	今まで、本人の意向で、地域資源と協力しながら個人の方を支援する場面はなかったが、あやの里とボランティア、民生委員、警察、消防、幼稚園、小学校、中学校等の交流もあり、必要時はお互いに協力しながら支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の生活に一番合った利用に向けて他のケアマネジャーやサービス事業者と相談しながら他のサービス利用について御家族と話し合いをしながら進める様にしている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター一長に来て頂いたり、又、あやの里の運営者も地域包括の運営会議に出て、助言をもらったりして互いに協働している。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、主治医の連携があり、又、御家族様に医療機関の要望もお聞きして個人のファイルに綴じてあり、緊急時等も御家族に確認を取りながら希望の医療が受けられるよう支援している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	あやの里では、認知症の病気はあるが、個人として尊重され、安心と尊厳のある生活を送って頂けるよう、職員は寄り添いながら、一人ひとりを大切に、今まで生き来られた誇りを損なわぬよう個性を受け入れ思いやりをもって接するよう心掛けている。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	話をする時は、ゆっくりわかりやすく、目の高さで接し、その人に合わせて話しかけたり聞いた入りしている。困っておられる時は一緒に考えたり、楽しそうにされている時は一緒に楽しみ、信頼関係を築くようにしている。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誘いかげや、その人が喜んで参加されるような言葉掛けを職員同志で勉強しあいながらセンター方式で学んだ、その人の好きな事、得意な事、大切にされている事等を頭にめぐらせながら、誘ってみたり、その人がどの様にしたいのかを見極めて心に添うよう支援している。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出や行事の時は、前日より服を選んだり、当日もお化粧や髪を整えたり、御家族が定期的に来て外出され、髪染めや理容室に連れて行かれる人もおられる。定期的にもお店からカットに来ていただいて希望の方は利用してもらっている。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きな食べ物、苦手なものを把握していて、職員と一緒に楽しみながらじゃがや里芋の皮むきをしたり、食べ方を話し合ったり話の輪が広がっている。片付けもおしゃべりしながら職員と一緒にやっている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこは飲まれる方はおられません、おやつ、特に甘い物を好まれる方が多く、時には一緒に外出しお茶をしたり、好きなものを買って物さることがある。飲み物は始終数種類を用意しているが、大抵人のものを欲しがられる傾向があり好みを超えてお茶を楽しまれている	○ 現在は、飲酒やたばこを吸う方はおられないが、今まではたばこのお好きな方は灰皿を準備して吸ってもらっていた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日頃より、紙パンツや尿取りパット減らしに取り組んでおり一人ひとりの排泄パターンを把握している、時間を決めて声をかけて排泄誘導をし、失禁を少なくするよう努力している。レクリエーションの中に骨盤低筋訓練を取り入れて毎日実行している。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、日曜日以外の午後に入ることが出来るようにしている。友達関係も把握して、くつろいだ入浴に心掛けている。入浴剤で温泉気分になって頂いたり、香りのある入浴剤や季節感を味わうお茶湯、ゆず湯、菖蒲湯、バラ湯も喜ばれている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎朝、軽い運動や歌等を取り入れたレクリエーションをし、自室の清掃をして、お茶やみかん等の手軽な果物を職員と一緒に楽しんで頂いている。気候に合わせて公園へ散歩へ出かけたり、家事をしていたき、規則正しい時間の流れで安眠して頂いている。	○	
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事を把握しており、お一人おひとりの出番を作ったりして、活躍の場を支援している。又、毎週木曜日自主活動の日で、各棟家入り乱れてのレクリエーションで、華道や裁縫、編み物、カラオケ等、好きな所へ出かけたりして笑顔の多い交流の場となっている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者の方は預かっているが、持っておきたい人にはご家族と相談し5千円以内を大事に持っている事で安心しておられる方もいる。買い物で出かける時は個人に持ってもらい支払うよう支援している。初詣のお賽銭は利用者から準備するよう声がかかる。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの個性を理解し、その人に合った出番を作ったり、庭へ出て行かれたら、そっと見守って、ユニット間で職員が知らせ合い、外へ出られたら他の人も誘って、おやつ等を持って近くの公園に出かけたりして気分転換をはかって徘徊の場面を少なくするよう努力している。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	衣類の買い物や郊外へのドライブ、外食等は、御家族と出かけられる人もいるが、高齢化に伴い、利用者の御家族も高齢になられているので、希望をお聞きしてお仲間とお出かけの行事として実施している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人の方等からお手紙や贈り物が届いたら、必ず職員がプレゼントを持った写真を添えてお返事を書いて、自分の名前だけでも書いてもらったり、夕食後のゆっくりした時間に電話をかけて、直接お話をしてもらうようにしている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者のお客様が来られたら一緒に安心して過ごして頂ける様、場所をつくり、お茶やお菓子を準備したり、おみやげで頂いた時はすぐに喜んで頂けるようその場でお出しして一時を過ごしていただくようにしている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者の理念が拘束をしないケアの実践も含まれており、朝のミーティングや毎月の職員会議、又、その時々気付いた言葉も拘束しない様、職員同志で気付きを注意しあい、ケアにあたっている。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝7時頃に入出口の門を解錠し、夜は8時20分頃には施錠している。家庭での戸締まりとしての施錠で、その他は常に開錠しユニット間や庭への出入りは全て自由となっている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状況を職員は常に把握している。職員がホールから用事が出る時は、利用者の所在や様子をさりげなく確実に伝えて席を立ち、頼まれた人はさりげなく接しながら常に安全と9人の所在把握をしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個人の薬等は、鍵のかかる戸棚にしまったり、洗剤(洗濯用、トイレ様、食器用等)や歯磨き粉等も目につきにくく、手の届かない場所や、昼間は所定の場所に置いていても夜間はしまう等危険防止を徹底している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	注意をしても、転倒はあり得るので、御家族会でも事例を挙げて話をしたり、事故が起きたらヒヤリハットや事故報告書を提出し、朝礼や主任会議で、運営者を交えて注意や助言、対応をその都度学び、熊本市へ報告し、事故防止に取り組みながら学んでいる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月ナースを中心によくある救急時の対応や、日頃から気をつけておく予防や対策等をわかりやすく話してもらっている。互いに職員なので質問もしやすく、ナースの実演指導もあり、介護職もしっかり学んでいる。ナースと主治医の連携もきちんと出来て心強い。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回は、部分的に訓練をやっている。又、毎日最後の戸締まりの時間に各ユニットの遅出勤務者が決められたユニットの回りを危険物がないか調べている。近所の住民の方々との協力も得られる様、日頃より働きかけが得られている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月の家族会で「起こり得るリスクについて」「認知症の方と拘束」について説明を行ったり、質問やご意見を頂いたりしている。事例をとおして話し、どうしてこの事故が発生したのか、どうしたら防げたか等伝え質問を受けたりし、ご理解して頂けるよう折にふれ話し、実際起こったことは御家族へも熊本市へも書面等で報告している。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、健康チェックを行っており、疑問を感じたり異変があればナースに相談し、主治医の指示を受けたり、緊急性のある場合は対応マニュアルに添って運営者やナース、御家族等にも連絡、情報を共有し、速やかに最善の対応を目指して実行している。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬管理袋を用意し、処方箋にそって期間、回数、内容注意事項等の情報も頂くので、個人のケースファイルに閉じ日々常にその内容を確認できるようにしている。薬の変更では、朝礼でも確認しあい、又「服薬済み」もその都度朝礼で確認し合っている。休みの職員へも「確認簿」で徹底するようにしている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝の朝礼で、服薬、排便状況についての申し送りを行っており、一人ひとりチェックをしている。便秘気味の人には、下剤の指示もあるが、水分摂取、運動、腹部マッサージ等行い、腸鳴や腹部膨満の確認を行ったりしている。日頃から食事の献立にも十分配慮し、特に水分摂取にはくれぐれも注意し対応している。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は一人ひとりに声かけして、洗面台までお連れして、歯磨きをして頂いたり、口をゆすいで頂いたり、その人に合った対応で支援している。又、歯科衛生士のボランティアさんから定期的に歯の状態を見て頂いたりケア指導を頂いている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量はチェックして、食欲不振の際は好きな食べ物を準備したり、主治医に相談してカロリーのある飲み物を飲んでもらったり、スタッフが毎食の食事量、水分量を把握して、看護師とも相談しながら支援している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策の指針があり、インフルエンザ予防接種も御家族に相談して実施している。また、流行の兆しがあれば対応策を提示したり、ユニット間の出入りをやめている。御家族や来訪者へも熱、咳、下痢等感染症の疑いのあるときはホームへの出入りは遠慮してもらい、蔓延を防ぐ対策をとっている。利用者の手洗い、うがいは日課となり徹底している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事の準備の前に、まな板、包丁は必ず熱湯消毒をして、食材の準備に入っている。食材はなるべく自家栽培の野菜を使用し、仕入れは国産の品に限定して新鮮で安全な食材の使用、管理に努めている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅地の中にあやの里があり、道路に沿って3カ所の門が広く開いており、学校帰りの子どももよく立ち寄って犬とたわむれたり、ご近所の人も庭の掃除をしていると、「花がきれいです」と声をかけて下さったり、段差もなく出入りしやすい。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の生活空間は畳の部屋や床の部分があり、居間から台所へも行けるし、トイレは入り口が分かりやすい様、入り口に電気をつけて「御手洗」と表示して、わかりやすく工夫している。出入り口にも段差をなくし、他のユニットでも自由に行っていただいている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃より、一人ひとりを尊重して生活していただいているが、独りで新聞を読んだり、ピアノを弾かれたり、又、気の合った人たちとソファに座ってテレビ視聴や談笑があったり、好きな場面で自由に過ごしておられる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、御本人や御家族と話し合いながら、畳の部屋にしたり床の部屋を利用していただいたり、今まで慣れ親しんだ家具や調度品を置いたり、御家族の写真やご主人様の位牌を置いてお花を飾ったり果物をお供えされたり、好きな様に心地よく過ごしておられる。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	あやの里は緑豊かな住環境に恵まれており季候の良い時は自然の風を大切に窓を開けている。真冬も急激な温度差が生じない範囲で1日数回は換気を行い、特に暖房による乾燥には十分注意をはらい、湿度計を見ながら冷暖の目安も適切に行っている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には木製の手すりをつけ、トイレ、浴室にも立ち上がりや歩行が安全な様、手すりを付けている。食堂の椅子も一人ひとりに合った椅子を用意している。ベランダの手すりにも布団を干したり、洗濯物もタコ足の物干しを利用して自立した生活が送れるようにしている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの入口は常に電気をつけて「御手洗」の表示をしたり、椅子には個人の座布団を敷いて色や柄で確認してもらったり、自室の入口には木製でお名前を書いた表札をかけたり、なるべく自立して暮らしていただけるようにしている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	南側に広いベランダがあり、気候やお天気の良い日はベランダでお茶を飲んだり談笑したり、又、ちょっと庭に出て散歩を楽しんだりされる。秋には渋柿をむいて干し柿をさげ、甘くなるのを待ったり、季節の花を楽しんだりして活用されている。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

あやの里は、静かな住宅地の中にあり、周囲には山ノ内公園、小学校、保育園があり、子ども達の声やちょっとした気分転換に散歩が楽しめる公園は、庭の様な感覚で利用でき、四季折々におやつを持って利用している。又、地域行事も公園で行われ、地元社会福祉協議会の方々がイベントの誘いをして下さり、良い場所を準備して下さい、年に数回は草取りやガラス拭き、行事への手伝い等に来て頂き地域のなかのあやの里として皆様にも少しずつ理解して頂いている。ホーム内で暮らされる利用者の方々も四季折々の花見ドライブ等、出かけられるのが大好きで、時にはお弁当を作ることから楽しまれている。毎日の朝レクをはじめ、健康体操、自主活動、歌の会等、ユニットを歩き来して歌ったり軽い運動をしたりして、皆80歳以上の高齢者であるが、活動的である。食事も普通食を3食、好き嫌いもほとんどなく完食され、馴染みの家で馴染みの利用者や職員と出来る家事をしながら平穏に、健康に暮らして頂いている。